

平成 24 年度研究功労賞推薦書

受賞対象者 八木 和一 先生

八木和一先生は昭和 39 年和歌山県立医大をご卒業後、昭和 44 年鹿児島大大学院（神経精神医学、神経生理学）を修了、昭和 44 年鹿児島大神経精神科の助手、昭和 48 年に同講師を歴任されたあと、開設されたばかりの国立療養所静岡東病院（てんかんセンター）に昭和 51 年に神経科医長として赴任され、以後、静岡東病院に平成 15 年まで勤務され、平成 8 年よりは院長として、てんかんの患者さんの診療と研究に多大な貢献をしてこられました。てんかんの病床は当初 1 つであったものが 4 個病棟 200 床まで増え、年間 1000 人前後の初診のてんかん患者、日々 100 人超の再診患者の診療を指揮してこられました。この間、ドイツのケールコルクてんかんセンターにしばらく滞在しておられます。

日本てんかん学会においては、昭和 60 年より評議員、平成 2 年より事務局幹事、平成 5 年より理事、平成 9 年より平成 17 年まで理事長を務めておられます。平成 16 年には、第 38 回日本てんかん学会会長をされました。また、平成 14 年には、第 17 回日本生体磁気学会の大会長も務めておられます。

国際てんかん関係では、国際抗てんかん連盟教育委員会委員を 1993 年より 1998 年まで、国際抗てんかん連盟アジアオセアニア地区委員会(CAOA)委員を 2002 年から務められ、アジアオセアニアてんかん連盟 AOEO の発足メンバーでもあります。また、アジアの各国にてんかん教育のために赴いておられます。この功績を称えられ、Asian-Oceanian Outstanding Achievement Epilepsy Award を、2010 年に Melbourne のアジア太平洋てんかん会議(AOEC)で授与されました。なお、1992 年にはブルガリアにて脳波計データ分析短期専門家として国際協力をしておられます。

その他にも、当日本てんかん治療研究振興財団の評議員、理事、企画委員長として、長年、重責を果たしてこられました。

さらに先生は、日本てんかん協会の活動を熱心に支援され、特にてんかんリハビリテーション研究、雇用研究などを強く推進してこられました。この活動は我が国におけるてんかんリハビリテーションの大きな飛躍につながりました。書籍「てんかんリハビリテーション研究」のシリーズや「てんかん生活支援マニュアル」シリーズなどの出版は、貴重な文献となっています。てんかん協会からは平成 18 年(2006)に木村太郎賞が授与されています。

先生の研究業績は数多いのですが、特に臨床生理学に造詣が深く、てんかんセンターに赴任されてからは、集中監視装置によるてんかん発作の分析などの多くの研究を推進され、

欠神発作、自動症、ミオクロニー発作、強直間代発作の臨床症状と脳波、成人レノックス症候群の長期経過研究、さらに突然死、てんかんの難治化要因、抗てんかん薬治療などでてんかんの多くの医学的側面で業績を残しておられます。また数多くの抗てんかん薬の治験に関与され、抗てんかん薬の本邦への導入に尽力してこられました。

一方、てんかんのリハビリテーションの阻害要因の研究なども同時に深められ、てんかんにおける「障害」の概念を提唱されました。てんかんの障害の八木・大沼分類は有名です。また、転倒の頭部保護帽の開発なども手がけられています。まさに、包括医療としてのてんかん医療の提唱と実践をしてこられました。

八木和一先生は、このように、日本のてんかん学、アジア地区のてんかん学のリーダーとして長年にわたり尽力され、臨床てんかん学の発展を牽引され、包括医療の基礎を作られ、てんかんに苦しむ多くの患者さんのために多大な支援を提供されるとともに、てんかん学を継承・発展させる若い医師・研究者を育成されました。これらの大きなそして重要なご貢献を称え、てんかん治療研究振興財団の研究功労賞にこころより推薦させていただきます。

静岡てんかん神経医療センター院長

井上 有史